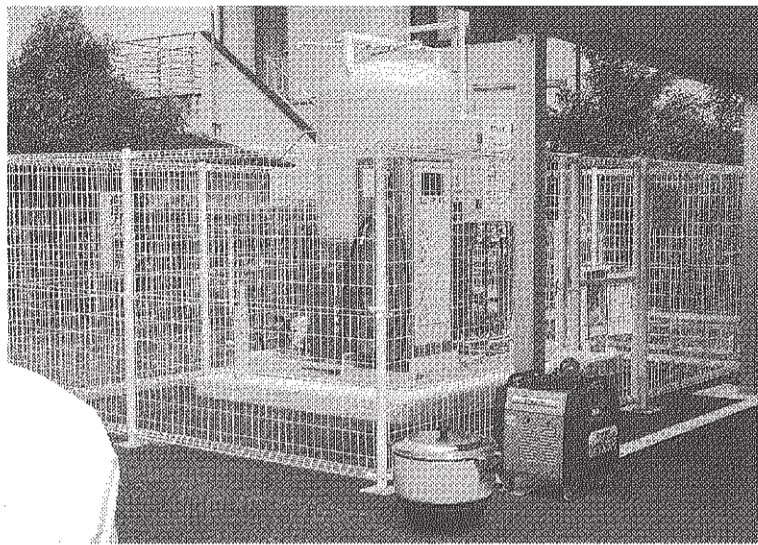


# スクールバスにLPガス車

## 鳥取・倉吉市 学校にスタンド、防災拠点に



はばたけ！  
「小さな交通」

-61-



鳥取県倉吉市が災害に強いエネルギーのLPガスに着目し、市内の小学校に災害対応型簡易LPガス(オートガスエナジー社製)を設置した簡易型LPガススタンド。容量は800リットル。手前は発電機と炊き出しセット。企業版ふるさと納税感謝状贈呈式の後、スタンドとスクールバスを視察する広田市長(右から3人目)、大浜ジャパンガスエナジー社長(同2人目)(9日、倉吉市)

### くらしの足

オートガススタンドを設置したLPガス自動車のスクールバスを導入し運用を開始した。中山間地域の通学支援と災害発生時の防災拠点の機能強化を同時に叶えるプロジェクトで、小学校にLPガススタンドを設置してLPガス自動車を活用する例は全国的にも珍しい。企業版ふるさと納税の寄付を活用した。

広田一恭市長は9日に行われた寄付者への感謝状贈呈式のあいさつで「南海トラフ大規模地震の注意情報や国内の災害が頻発、激甚化する状況の中で対応できず、学校の通学に使う、災害時にガスが使えないという一石二鳥のみならず、LPガスは災害時の分散型エネルギーとして復旧が早く、

二酸化炭素の排出量が少なく環境も考えて上で一石三鳥、四鳥の効果があるのではないかと高く評価した。倉吉市は2016年10月21日の鳥取県中部地震で震度6弱を観測。住宅などに被害を受けた住民が避難所に身を寄せている。この経験から激甚災害発生時に迅速で確かな対応ができる防災拠点の整備が求められている。

一方、児童数減少に伴う小学校の統廃合が進み、今年度は4月に小鴨小と上鴨小が統合し新・小鴨小学校が誕生。環境も考えて上で一石三鳥、四鳥の効果があるのではないかと高く評価した。倉吉市は2016年10月21日の鳥取県中部地震で震度6弱を観測。住宅などに被害を受けた住民が避難所に身を寄せている。この経験から激甚災害発生時に迅速で確かな対応ができる防災拠点の整備が求められている。

が、北谷小と高城小が統合した10人乗りのハイエース1台をスクールバスとして配置し、平常時は同小高城地区の児童の通学手段、災害時には物資輸送や要配慮者の搬送として活用することにした。

財源の企業版ふるさと納税にはLPガス元売り大手ジャパンガスエナジー(東京都千代田区、大浜健社長)などから約2200万円の寄付が集まった。ガススタンドはカグラベーパーテック(兵庫県尼崎市、田中恵里砂社長の「オートコンポ」

そこで昨年、同市教育委員会が中心となり2つの課題を同時に解決するプロジェクトを開始。市の指定避難所となっている小鴨小学校敷地内に災害対応型簡易オートガススタンドを設置して備蓄可能なエネルギーを確保。災害時には避難者のための炊き出しや電源確保にあてることに。久米小

を導入車両の改造はタイムトラベル(広島市、木本弘三社長)が手掛けた。LPガスは送電線や導管が必要なく、燃料を据え置きできる「軒下在庫」と呼ばれ、災害に強い特徴がある。発電機や暖房や調理器具など対応する設備も多様で「大規模災害時の最後の砦」とも言われる。

LPガス自動車はCO2排出量がガソリンより少なく、窒素酸化物、硫酸酸化物もほとんど排出せず環境性能にも優れている。平時にはスクールバスや公用車

シールなど法人需要のため災害時に燃料パニックが起きにくいため、エネルギーのリスク分散が期待できる。

シールなど法人需要のため災害時に燃料パニックが起きにくいため、エネルギーのリスク分散が期待できる。